

# 産地を支える中心的経営体の育成と規模拡大支援 ～ぶどう新品種「クイーンニーナ」「ピオーネ」の省力化の検討と、盆前出荷技術の確立～

所属名：北薩地域振興局農政普及課  
発表者名：鮫島 義幸

## <活動事例の要旨>

ぶどうの無核化処理の省力化と消費者ニーズに応え、盆前・3色セットのぶどう出荷に向け、関係機関や生産者と連携し、技術確立に取り組んだ。

省力化については、無核化、果実肥大処理(ジベレリン処理)の方法を見直し、処理回数を2回から1回へ削減することができ、省力化及び作業時間の短縮が図られ、規模拡大が可能になった。

ぶどうの盆前出荷については、ジベレリン1回処理に加えて、シアナミド処理、環状剥皮処理等の実証により、これまでより10～14日早く出荷が可能になり、盆前までに、「ピオーネ」「クイーンニーナ」「シャインマスカット」の3色セット(贈答用化粧箱)を販売できるようになった。

これらの取組みは、無核ぶどう研究会で随時検討を行い、成果等を紹介したことで、現在の生産面積は、平成26年の倍の270aになり、新たに2名が栽培を開始した。

## 1 計画された活動の課題・目標と策定過程

### (1) 課題・目標と設定理由、及び活動の内容と方法

薩摩川内市では、近年の消費者ニーズを受け、種なしぶどうの導入を行っている。種なし(無核化)ぶどうにするためのジベレリン処理に手間がかかるため、生産者から省力化が求められていた。

また、消費者から人気のある「ピオーネ」「クイーンニーナ」「シャインマスカット」は、大粒で食味が優れるため、当地域においても導入が進んでいるものの、①盆前に出荷できない、②食味や着色が年により不安定などの問題があった。

さらに、生産拡大の消費者ニーズに応えるためにも、担い手の確保や面積拡大により産地を発展させる必要があった。

そこで、ジベレリン処理の労働負担軽減及び盆前出荷(出荷の早進化・3色セット・高品質果実生産)に向けて調査研究を活用して技術確立し、産地に波及することとした。実施に当たっては、関係機関や生産者との体制を整備し取組みを行った。

## 2 普及活動の内容(調査研究の関わりについても記述する。)

### (1) 活動の経過

当課では平成24年から、普及指導計画に「無核ぶどうの新たな産地づくり」を位置づけ、①栽培技術向上、②販売戦略検討に取り組んだ。

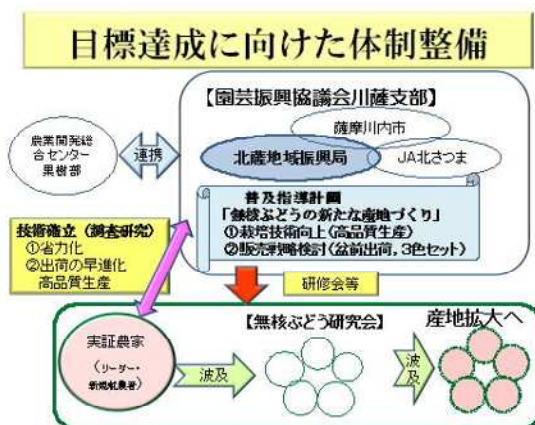
### (2) 指導・支援の体制

省力化や盆前出荷に向けた技術確立は、調査研究課題として設定し、園芸振興協議会、農業開発総合センター果樹部と連携した。

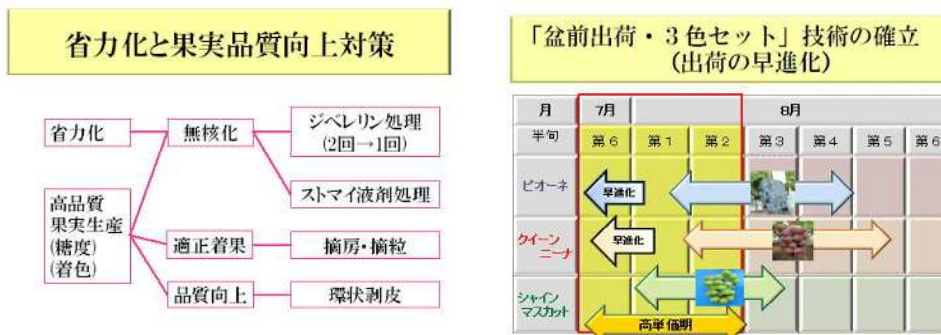
また、無核ぶどう研究会(以下、研究会)の会長のほ場に、実証ほを設置した。なお、会長の後継者が平成26年度に新規就農し、実証の一部を青年プロジェクトに位置づけた。

技術検討の段階から、研究会にも紹介し、産地づくりへの関心を高めた。

### (3) 調査研究による技術確立



ぶどうの無核化処理の省力化と、「クイーンニーナ」、「ピオーネ」の出荷の早進化で、消費者ニーズに応える「盆前・3色セット」技術の確立に取り組んだ。



(4) 地域への波及

研究会では、実証試験段階から現地研修を行い、実績報告を行い、波及を図った。また、担い手組織育成研修会において、新規就農者が青年プロジェクト発表を行った。

3 普及活動の成果

(1) 課題及び目標の達成状況とその要因

ア 省力化

ジベレリン処理の方法を見直し、2回から1回にすることで、果実品質は向上し、また、作業時間を削減できた。

イ 盆前出荷・3色セット(早進化)

クイーンニーナについては、ジベレリン1回処理で、糖度が20程度、酸が0.4以下、着色がカラーチャートで4程度と、慣行の2回処理と比較して、収量は減収したものの、果実品質が大幅に向上した。なお、適正着果、環状剥皮等の技術を組み合わせることで、通常より10~14日程度早く収穫できるようになった。

「ピオーネ」についても、7月下旬には、目標の果実品質を満たす、糖度17.8、酸0.32、着色8.0の果実を生産ができた。慣行より、10~14日程度早い、7月20日頃から収穫可能と思われた。

「シャインマスカット」と併せ、盆前・3色セットの出荷ができた。

(2) 青年農業者の技術向上

新規就農者は、取組みを通じて、課題の設定と改善に向け、データを取りながら成果につなげることができた。また、対面販売により、消費者から喜ばれることを直接感じ取り、栽培意欲が高まった。

(3) 産地の拡大

省力化及び出荷の早進化技術を確立できたことで、生産者の規模拡大への意欲を高め、29年度には改植と規模拡大120 aにより、面積が拡大した。また、新規に2名が栽培を開始しており、今後、生産者の増加が期待できる。

4 今後の普及活動に向けて

「シャインマスカット」、「クイーンニーナ」のさらなる省力化・高品質化の実証や、新たな省力品種の導入と栽培技術確立、土壌改良と樹勢の強化技術等に取り組む、産地の活性化と農家の所得向上を図る。

**【結果】省力化達成&盆前出荷が可能に**

「クイーンニーナ」における調査結果 (29年8月2日)

区	果房重 (g)	果粒数 (粒/房)	果粒重 (g)	糖度 Brix	酸 (g/100ml)	着色 (カラーチャート)	収量 (kg/10a)
試験区① (GA1回F3)	580	31.8	18.4	20.5	0.35	4.5	1,740
試験区② (GA1回F10)	592	31.1	19.0	19.8	0.35	3.9	1,766
慣行 (GA2回F3)	747	33.8	22.2	18.0	0.42	1.6	2,241
目標				20以上	0.4以下	4.0	1,500

GA:ジベレリン処理 F:フルメット(処理区①5ppm ②10ppm)